安　全　デ　ー　タ　シ　ー　ト

整理番号 TNI 00009
作成日 2005/12/1
最終更新日 2015/1/1

1. 化学物質及び会社情報

会　　社　：大陽日酸株式会社
住　　所　：〒142-8558　東京都品川区小山 1-3-26 東洋 Bldg.
担当部門　：SI 事業部　　担 当 者 ：平　　博 司
電話番号　：03-5788-8695　　FAX 番号 ：03-5788-8710
緊急連絡先：SI 事業部（電話番号 03-5788-8550）
メールアドレス： Isotope.TNS@tn-sanso.co.jp
ホームページアドレス：http://stableisotope.tn-sanso.co.jp

化学物質　　１，１，２，２－テトラクロロエタン
別名　　アセチレンテトラクロリド

製品名　　1,1,2,2-テトラクロロエタン-d_2

＊ 安定同位元素で標識された化合物は、標識核種及び位置により製品名称が異なりますが、安全性データは非標識化合物と同一とみなします。従って、特に指定しない限り本シートに記載されているデータは、非標識化合物のデータを採用しています。

2.危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外

	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	区分外
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分３
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入： ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分３
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入： ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分２
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分２
	発がん性	区分外
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 1(肝臓)
		区分３ （麻酔作用、気道刺激性）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分 1(神経系、肝臓)
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	区分２
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語： 危険

危険有害性情報：　飲み込むと有毒（経口）
吸入すると有毒（蒸気）
皮膚刺激
強い眼刺激
遺伝性疾患のおそれの疑い
肝臓の障害
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
長期又は反復ばく露による神経系、肝臓の障害
水生生物に毒性

注意書き：　【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合:直ちに医師の診断､手当てを受けること。
口をすすぐこと。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。
【保管】

容器を密閉して換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

---

3. 組成・成分情報

単一成分/混合物の区分‥　単一の化合物

化学名 ‥‥‥‥‥‥‥‥	１，１，２，２－テトラクロロエタン
別名 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥	アセチレンテトラクロリド
含有量 ‥‥‥‥‥‥‥‥	９７．０％
化学式又は構造式 ‥‥‥	$CHCl_2CHCl_2$
官報公示整理番号 ‥‥‥	化審法（２）－５６
ＣＡＳ番号 ‥‥‥‥‥‥	７９－３４－５
国連分類番号 ‥‥‥‥‥	６．１（毒物　Ｐ．Ｇ　Ⅱ）
国連番号 ‥‥‥‥‥‥‥	１７０２
分子量 ‥‥‥‥‥‥‥‥	１６７．８５
日化辞番号 ‥‥‥‥‥‥	Ｊ４３．３５３Ｅ
ＲＴＥＣＳ番号 ‥‥‥‥	ＫＩ８５７５０００

---

4. 応急措置

目に入った場合 ‥‥‥‥	清浄な流水で、最低１５分間以上洗眼し、直ちに眼科医の手当を受ける。
皮膚に付着した場合 ‥‥	汚染した衣類等は速やかに脱ぎ捨て、触れた部分を水又は微温湯を流しながら洗浄した後、石鹸でよく洗い落とし、医師の手当を受ける。
吸入した場合 ‥‥‥‥‥	被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合 ‥‥‥‥	水でよく口の中を洗浄し、直ちに医師の手当てを受ける。

---

5. 火災時の措置

消火方法 ‥‥‥‥‥‥‥	この物質自体燃え難いので特別な消火方法は必要ない。周辺火災の際には、速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には、容器及び周囲に散水して冷却する。

---

6. 漏出時の措置

処理者に対する注意 ‥‥	風下の人を退避させ、漏洩した場所の周辺にロープを張るなど

して関係者以外の立ち入りを禁止する。付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火用器材を準備する。作業の際には保護具を着用し、風上から作業すること。

環境影響に対する注意 ‥ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。大量の水で稀釈した場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないよう注意する。

流出物に対する注意 …‥ 乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。残りは大量の水で洗い流す。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い …… 取扱いは換気のよい場所で行い、漏れ、あふれ、飛散しないようにし、皮膚に触れる、吸入する等がないよう注意する。

保管 …… 直射日光を避け、冷暗所に保管する。

---

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 …… １ｐｐｍ（６．９ｍｇ／ｍ３）

許容濃度 …… 日本産業衛生学会：５ｐｐｍ（３５ｍｇ／ｍ３）

ＡＣＧＩＨ　ＴＬＶ：TWA　１ｐｐｍ（ｓｋｉｎ）

ＯＳＨＡ　ＰＥＬ：ａｉｒ　TWA　５ｐｐｍ（ｓｋｉｎ）

保護具 …… 保護眼鏡、保護手袋、保護長靴等を使用する。

設備対策 …… 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置の設置を行う。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

---

9. 物理及び化学的性質

外観等 …… やや赤味の僅かに薄い黄色透明液体。

沸点 …… １４６℃

融点 …… －４４℃

比重 …… １．６０

溶解度 …… 水に難溶、有機溶剤に可溶。

蒸気圧 …… １０mmHｇ（３２℃）

蒸気密度 …… ５．７９

初留点 …… データなし。

屈折率 …… １．４９４

引火点 …… データなし。

発火点 …… データなし。

爆発限界 ・・・・・・・・・・・・・ データなし。
揮発性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
可燃性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
発火性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
酸化性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
爆発性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
粉じん爆発性 ・・・・・・・・・・ データなし。

---

10. 安定性及び反応性

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 通常の取扱い条件において安定。

---

11. 有害性情報

急性毒性 ・・・・・・・・・・・・・ ＯＲＬ－ＲＡＴ－ＬＤ５０　８００ｍｇ／ｋｇ
刺激性 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
皮膚腐食性 ・・・・・・・・・・・・ データなし。
慢性毒性 ・・・・・・・・・・・・・ 中枢神経系、肝臓、腎臓、粘膜に影響が出ることがある。
がん原性 ・・・・・・・・・・・・・ ＩＡＲＣ：グループ３（ヒトに対する発がん性については分類できない）
ＡＣＧＩＨ：Ａ３（動物発がん性物質）
変異原性 ・・・・・・・・・・・・・ データなし。
生殖毒性 ・・・・・・・・・・・・・ データなし。
催奇形性 ・・・・・・・・・・・・・ データなし。

---

12. 環境影響情報

分解性 ・・・・・・・・・・・・・・ 分解度：０％ ｂｙ ＴＯＣ
１０％ ｂｙ ＧＣ アナリシス
蓄積性 ・・・・・・・・・・・・・・ 濃縮倍率（ＢＣＦ）：
４．５～１３．２（濃度０．２６ｍｇ／ｌ）
４．１～１３．１（濃度０．０２６ｍｇ／ｌ）
魚毒性 ・・・・・・・・・・・・・・ ヒメダカに対する急性毒性
ＬＣ５０：３１ｍｇ／Ｌ／４８時間
その他 ・・・・・・・・・・・・・・ ヒトにとって重要な食物連鎖の中で、特に魚類において生物濃縮が起こる。

---

13. 廃棄上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 燃焼法を使用する。可燃性溶剤に溶かし、少量ずつ焼却炉で焼

却する。

---

14. 輸送上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。

---

15. 適用法令

ＰＲＴＲ法 ・・・・・・・・・・・・	第２種指定化学物質
労働安全衛生法 ・・・・・・・・	名称等を通知すべき危険物及び有害物
	名称等を表示すべき危険物及び有害物
	作業環境評価基準
	第１種有機溶剤等
大気汚染防止法 ・・・・・・・・	揮発性有機化合物
	有害大気汚染物質
海洋汚染防止法 ・・・・・・・・	個品運送Ｐ
	有害液体物質（Ｙ類物質）
バーゼル法 ・・・・・・・・・・・・	廃棄物の有害成分・法第２条第１項第１号イに規定するもの
航空法 ・・・・・・・・・・・・・・・	毒物類・毒物
船舶安全法 ・・・・・・・・・・・・	毒物類・毒物
港則法 ・・・・・・・・・・・・・・・	その他の危険物・毒物類
外為法 ・・・・・・・・・・・・・・・	輸出貿易管理令別表第１の１６の項
	輸出貿易管理令別表第２
	輸入貿易管理令第４条第１項第２号
労働基準法 ・・・・・・・・・・・・	疾病化学物質

---

16. その他の情報

【参考文献】

産業中毒便覧 増補版　後藤稠 他編　　医歯薬出版（1981）
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS) NIOSH(1985～1986) Vol.1
Dangerous Properties of Industrial Materials (第７版) N.I. Sax 他編
Van Nostrand Reinhold (1988)
化学品法規制検索システム　日本ケミカルデータベース
GHS 仕様モデル SDS　中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

＊ この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。

また、含有量、物理及び化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。